



コミュニティ しずおか

2021
4月
No.162



ウシガエルの皮を乾かしラミネート加工した標本にビックリ

地域の自然や文化に親しみ守っていこう!

NPO法人浜松市東区の自然と文化を残そう会(浜松市)

▼天竜川に架かるかささぎ大橋の近く東区豊西町に「^{じっこいけ}十湖池ビオトープ」がある。1970年頃土地改良工事で十湖池は水が枯れてなくなるが、1999年に地名の由来となった俳人松島十湖のひ孫の松島知次氏により水路ビオトープとしてよみがえり、友人たちと維持活動に力を入れた。

▼会員の高齢化が進み活動の維持を危惧した橋本俊初代会長は会をNPOにするとともに、高校で環境コース担当教師だった現会長等を仲間に入れた。これまで積極的にPR活動をしていなかったが、団結して子どもの環境教育の場として自然と触れ合う年6回のイベントを開催。知名度が上がり地元の幼稚園や小学校が校外学習で訪れるようになり、子どもたちが水辺で遊ぶ姿が普段でも見られるようになった。

▼会員19人(男性15人女性4人)平均年齢は約60歳。都合のつく人が月2回の整備活動にマイペースで参加「ユルさが売りなんです」と代表は笑う。市街地から近く立地が良いこともあり、イベントには100人以上集まるようになった。今後も地域から愛されるように頑張っていきたい。

◇代表:井口繁和さん (問合せ・090-1476-9834)
【情報提供・佐藤勝彦】

Topics トピックス

- 地域訪問記…………… P2・P3
大洲自治会(藤枝市)
- 地域訪問記…………… P6
袋井市介護者ほほえみの会(袋井市)



コミック

のりづき・りえ



3密にならぬよう種目はリレー競技を中心にした運動会



上:買物支援 右:ウォーキングイベント検温

工夫を凝らし、幅広い世代が活動する大洲地区

藤枝市

大洲自治会

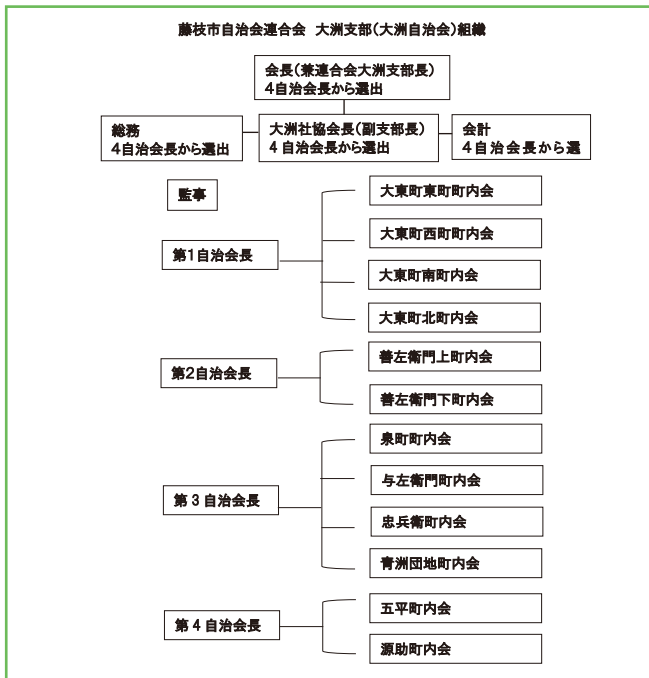
今回の訪問地は、藤枝市の南に位置し大井川に接する地域大洲地区(約3,500戸)。コミュニティ静岡160号でも紹介した藤枝市内で今年度唯一コロナ禍に地区対抗運動会を行った地区である。連携が良く取れている地区と聞き取材をお願いした。自治会長の小林一男さん、交流センターに派遣されている市職員の荻野さんにお話を伺った。

大洲ってどんなところ？

元々大井川の三角州であり、洪水の被害を受ける平地に堤防を造り他所からの移住者の手で農地に開拓された。その後工場の進出もあり移住者にとっても安住の地になっているが、市街化調整区域であるためH27年をピークに人口は減少。地区社協と自治会は同じメンバーで構成される。

大洲の自慢

地区センター勤務が3か所目となる荻野さんは大洲にきて「他の地区には無い何かがある」と思ったそう。行事自体は他の地区でも行われているがそこに関わる住民、特に各行事に中学生がボランティアで協力する仕組みが出来上がっていることに感心したと言う。「中学生には地区に愛着を持ち、将来地区の担い手になってほしい、小さいうちから顔の見える関係を作る



開拓者の名前が残る町内名。町内会長は自治会長へスライド
ために行事に参加してもらっている「学校との話し
合いを良くしている」と小林さんの笑顔がほころぶ。

多彩な活動を一部紹介

「おいでおおす」(ネーミングがすごい)「おいも若きも
いつでもでであえる場所」を目指す交流センターの1室
を開放した居場所づくりは利用者の年齢制限なしで
昨年度から取り組んでいる。「スタディールーム」自主
学習用にセンターの空き室を活用。中学生が小学生
に勉強を教えたり、元教員の方が自主的に教えに来
るなど良い効果が生まれている。「買い物支援ノアの
運ぶネ」(車両名に掛けたネーミングが上手い)令和
2年度から始まった買い物支援サービス。40人を超
える方の利用登録。「大洲のこども作品展」こども園・
小・中学校の子どもたちの絵画や書道等を交流セン
ターに展示。今回は藤枝特別支援学校の子どもの作
品も展示し、800人を超える来場があった。

コロナによる連帯感の危機～行事の 工夫を凝らし活動を継続する～

今年度は人の集まるイベント活動を中止にしたとこ
ろが多い。そんな中大洲地区は地域対抗運動会を初
め、栃山川のウォーキングイベント、大洲のこども作
品展を実施できた。もちろん感染予防対策を万全に
考えての実施。二の足を踏むところが多い中どうし
て、コロナ禍にもかかわらず活動を続けられるのか？



「ふれあいまつり」で活躍する中学生



コロナ禍でも運動会の中学生ボランティアに多くの応募があった

素朴な疑問に自治会長歴6年の小林さんは「やめるの
は簡単だが、継続しているからこそ地域住民が繋が
り、安全・安心なまちづくりにも絶対に生きてくる」と
熱心に話された。「あいさつで しぼんだ心も 咲き
ほこる」の目標を掲げ地域住民のつながりを築いてき
た大洲地区。自治会、地区社協、民生・児童委員、地区
交流センター、学校等の連携を大事にして行事を進
めていることが地域の良さに繋がっていると感しまし
た。皆さんもぜひ、大洲に「おいで」ませ。



左から自治会長小林さん、地区センター職員の荻野さん

◇代表:小林一男さん
【情報提供・荻野大輔】

レポート 高村 光 編集委員



まちからむらから



沼津市

「つながり」という実を結ぶ親子サークル

おやこサークル
りんごのき



紙皿と葉っぱで作ったふくろう

▼門池地区センターで月に1回開催される「りんごのき」。平均10組の親子が体操や工作を通じて親子のふれあいを楽しんでいる。

代表の森さんが門池地区に引っ越した際、まわりに知り合いがない事、転居前に参加していた子育てサロンが楽しかった事、「人との繋がりがあって人って救われる」という思いから2017年に立ちあげた。現在、知り合ったママたちに声を掛け仲間5人で会を運営している。

▼「暖かい雰囲気で楽しい」「気分転換になりました」参加者からの感想が励みになる一方、参加費100円でも作れる物を考えたり、活動の周知の仕方に苦戦した。行政からの支援がない有志団体での活動の難しさを学んだと言う。

▼門池には地区主催の子育てサロンに、りんごのきの活動も加わり、門池の子育てママたちにとってはより良い環境になっている。会ではパパや祖父母でも参加しやすい雰囲気づくりや子育てに困っている人

に寄り添いつながり、地域で安心して子育てできるような環境を目指していく。

◇代表:森 香織さん (問合せ・080-3255-9912)

【情報提供・福田和男】

裾野市

ふれあい子どもカレー食堂再開します

ふれあい子ども
カレー食堂の会

▼2021年4月10日、裾野市の茶畑団地集会所で東地区の子どもと高齢者を対象にした居場所「ふれあい子どもカレー食堂」が再開される。昨年5月の緊急事態宣言から今年3月まで「今こそ活動するべき!」と感染対策をしてカレー弁当の配布をしていた。

▼2018年、代表が子どもを取り巻く現状を知り、子どもが安心して過ごすには、地域の皆で見守れるような環境が必要だと地域の仲間や防災講座で知り合った方に声を掛け発足。カレーの提供だけでなく、勉強・折り紙・工作等子どもたちが選択できる時間を設け、スタッフやカレーを食べに来た高齢者と過ごす。回を重ねるごとにお互い顔を覚え、気軽に会話が生まれている変化を感じているという。

▼毎回50食程度を公民館で調理。足りなかったら近隣の店までレトルトを買いに走ることも。食材提供やお菓子の差し入れがありがたく、何よりスタッフに感謝していると代表。皆で食事をとる楽しさを知ってもらうのは勿論、地域の大人と子どもと一緒に遊び、つながりを深める地域づくりを目指している。



再開後は外での会食予定

◇代表:小野道子さん
(問合せ・055-992-0941)

【情報提供・志田忠弘】

島田市

地域の関係性深める合同広報誌発行!

川根町合同広報誌
編集委員会



気合い十分の編集委員の皆さん

▼NPOまちづくり川根の会・川根中学校・川根小学校・川根温泉の4者の広報担当者が集まり、島田市川根地域の情報を一元化した合同広報誌が2021年4月から発行される。

▼合同広報誌の発行に至ったのは、過疎地域である川根の広報活動の課題があった。担当者はそれぞれ自分の仕事を持っており、その合間を縫ってボランティアで広報誌作業に取り組んでいる事。もう一つは、各広報担当者同士で地域情報を共有する場が無い事。また専業としてスキルを磨く場がない事も課題だった。それらを解消すべく4者が集まり、今後は地域の情報発信力の底上げと持続可能な仕組みを目指すことになった。

▼「広報」の語源は英語の「Public Relations」からきている。互いに情報交換して関係性を作っていくというのが本来の広報の意味という。地域広報の役割というのは情報発信だけではなく、地域住民同士の

関係づくりもミッションの一つと考え新しい広報誌を発行していく。

◇代表:村松遼太郎さん (問合せ・090-2614-6168)



御前崎市

高齢世帯の困りごとはお助け隊にお任せ!

宮ヶ谷お助け隊



伐採した木で看板を製作

▼2016年に下朝比奈地区内の宮ヶ谷町内会に住む有志が立ち上げた「宮ヶ谷お助け隊」。同級生4人の飲み会で「高齢化の進む地域に貢献できないか」と雑談したことをきっかけに、高齢者世帯を対象にした草刈りや垣根、樹木の伐採整理、グリーンバンクやアダプトロードプログラムに参加し定期的な花壇や道路の整備活動を始めた。

▼とはいえ待っていても依頼はこないで、1件目は以前から気になっていたお宅を訪問しお願いして草刈りと垣根の手入れを行った。その後口コミで活動が増えていった。

▼現在、会員は8人(平均年齢71歳)。月の活動は1.5回程度で体力面を考え活動時間は半日と決めている。作業代は各家庭状況に考慮した金額にしている。道路整備は県の事業に参加しているので、機材などの支援を受けており活動費に問題はない。活動も6年目を迎え「自分の生きがいになっている」「5年も続いてビックリ」と声上がる一方、個人宅の依頼が増加し会員の確保が今後の課題でもある。

◇代表:土井晴敏さん(問合せ・0537-86-3798(事務局))

【情報提供・黒田典男】

湖西市

地域の財産「ささゆり」を守ろう

郷南ささゆり保存会

▼湖西市新居町郷南地区の上水道施設斜面に咲く「ササユリ」。毎年5月中旬から6月中旬まで「ささゆり鑑賞会」が開催され、土日には地元保存会による案内も行われている。

この管理を行っているのが地元有志11人(平均年齢70歳)からなる郷南ささゆり保存会。2012年に郷南地区有志が「地域で保存しよう」と会を結成し、年3回の草刈り、見学者の為の遊歩道整備、種摘み・種蒔等の作業を、自治会や近隣のお寺の支援を受け活動している。

▼2002年発見された際は20数本だった花も、会員の創意工夫で株を増やし、斜面一帯に600本咲くまで増えた。新聞に掲載され愛知県や遠くは東京から訪れる人もあり、案内をする時の会話が楽しいと言う。▼種から開花まで最低7年かかるが、地域の仲間と郷南地区の宝を見守り育てる事を楽しんで活動をしている。

※新居町駅から徒歩15分程度。今年は5月15日頃から鑑賞会を予定。

◇代表:小笠原駒広さん (問合せ・090-6809-0639)



急斜面での草刈り ユリを刈らないように慎重に

【情報提供・寺田敏幸】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます(アドレス <http://www.sizcom.jp>)

No.	市町	活動名	主催者	趣旨・目的	月日
1	伊豆の国市	天然野菜マーケット IKOU プロジェクト	伊豆の国オーガニックユニット	体と環境に優しい野菜や手作り加工品や雑貨などの販売。	毎週日曜
2	函南町	災害でなくとも共助できる豊かな地域に!	暮らしの応援隊	高齢化の高いダイヤランド地区。ご近所のお困りごとを共に解決、軽減にあたる応援隊!	通年
3	菊川市	「第15回梅の鑑賞会」	平川地区コミュニティ協議会	地域が安全で住みよい環境を保ち続け、子孫に受け継がれ発展することを目的に活動。	通年
4	掛川市	発足して20年 仲間とともに歴史をご案内	掛川観光ボランティアガイド「猫の手の手会」	掛川の名所、旧跡を巡る市民と観光客の案内で社会参加と情報発信	月1回 定例会
5	磐田市	里山で地域を活性化する	しきじ里山公園を守る会	しきじ地域の活性化と高齢者や子どもたちに憩いの場所をつくる。	週5回

地域訪問記

長く続いている団体を紹介します。

介護技術研修会で勉強した後は
お楽しみ企画で笑って終了



昨年度のリフレッシュ交流は
静岡福祉大学を訪問
興味津々に話しを聞く参加者

左から、市社協の杉さん、
副会長の太田さん、
会長の鈴木さん、
会員の大場さん



“ほほえみ”をつなげて22年

袋井市介護者ほほえみの会（袋井市）

『看る』この二文字には世話をするという意味があります。子育てや支援を必要とする人の世話から高齢者の介護までその言葉の中には二文字では表せない苦労があり、義父や義兄の介護の経験を持つ私は介護に携わる方の身体的、精神的支えの必要性や重要性は介護される方以上に必要であると感じていました。今回、どんな支援をされているのかとても興味がありました。

ほほえみの出発

1999年、奥様の介護をしていた樽松さんが、介護される人が個々に合った介護を受けるには在宅で行った方が良くと考え「介護を負担とせず“ほほえみ”が持てるように」と介護者同士の横の繋がりを作りました。介護保険制度前は相談できる場はなく、地域を知っている民生委員と介護者が一緒になって会を発足。事務局を社協内に置き、役員は元民生委員や元介護者、市社協の他に市内5箇所の民生委員組織から5人が選出される。現在、会員は正会員と賛助会員85人その内会運営役員15人。主な活動は年3回の機関誌の発行、年2回のリフレッシュ交流会と年1回の介護技術研修会です。

22年目の活動 支えるちから

活動内容は介護者の声も聞きながら役員会で決定。本年度はコロナでリフレッシュ交流会は中止になり介護技術研修会のみ2月に実施。介護技術研修会では合唱やビンゴ大会等の娯楽も企画し、楽しい雰囲気を作り出しています。リフレッシュ交流会は、施設見学とお楽しみの食事とお買い物定番。この食事の時間が介護者同志の交

流と情報交換、役員にとっては介護者の生の声が聞ける情報収集の場になっているそうです。

介護者にとって活動に参加することは気軽にできないため、年3回発行する機関誌「ほほえみ」にお知らせや介護に必要な情報を載せ、早めにデイサービス等の利用を申込み参加の予定が組めるようにし、時間も9時30分～15時と無理ない時間に配慮しています。

会を支えるのは民生委員の力も大きいのですが、機関誌の発行や講演の依頼等は社協に担当職員がいてくれて出来る事と皆さんは口を揃えます。役員には介護経験者も多いと聞きます。介護の苦労を忘れさせ笑顔の時を過ごし家に帰ってからもその笑顔が続くように、発足当時の“介護者を支える”精神を繋げて来た努力は大きいと思いました。

これからの課題

これからの活動について話を伺うと「継続するために呼掛けに力を入れたいが人との直接会話が減るコロナ禍でどう工夫していくのか大事である」と元民生委員の鈴木会長はおっしゃいます。

どんなに生活様式が変わっても、介護者を支えるには、人の繋がりをどう活かすかが大切なことであり課題ではないでしょうか。介護保険で介護者の苦労は軽減されるかもしれませんが。しかし介護者の心の安らぎには“ほほえみの会”のような繋がる活動が必要だと感じました。

◇代表：鈴木 誠さん(問合せ・0538-48-6195)

【情報提供・大場照男】

レポート：市川頼子 編集委員



静岡県の事業を紹介します

シズオカ エール ステーション

地域づくりに、『SHIZUOKA YELL STATION』の活用を!

静岡県は、地域活性化に取り組む「地域活動団体」とその取組を応援する人々「関係人口」をつなぐWEBサイト『SHIZUOKA YELL STATION』を立ち上げました。



『SHIZUOKA YELL STATION』のポイント!

●協力者の募集が可能

当WEBに団体登録すると、協力者の募集やイベントの告知ができます(下図参照)。

任意団体も登録可能です。



●県が情報発信に協力

募集プロジェクトを県の広報媒体で県内外(首都圏等)へ情報発信します。

<県の広報媒体>

- ・「ふじのくにパスポート+」会員へのメルマガ配信
- ・関係人口ライターによる取材記事の制作と発信
- ・県のSNS等を活用した情報発信など

●「関係人口」に着目

その地域に住んでいても、いなくて

も多様な形で地域に関わる人が増えています。

県は、このような関係人口と呼ばれる人達に皆様の活動を知ってもらい、実際に活動に関わってもらいたいと考えています。

皆様の活動に「関係人口」という新しい要素を取り入れてみませんか。ぜひ当WEBを活用してください。県も一緒に伴走します。

▼ご連絡はこちらへ

県総合政策課 関係人口担当
☎054-221-2184



<https://shizuoka-yellstation.fujinokuni-passport.com/>

◀◀◀ WEB、団体登録・会員登録はこちらから。

地域活動に関心のある方へ!

募集します

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

★コミュニティ活動集団育成事業

趣 旨

この事業は、人々が協力し合って住みよい地域をつくるために活動する集団を「コミュニティ活動集団」として2年間指定し、活動に必要な経費の一部を助成することによって、地域の先導的役割を担う活動集団の育成支援を行うものです。



指 定 の 期 間：毎年度4月から次年度3月までの2年間とします。
 活動経費の助成：募集集団数 15 集団。活動経費として1 集団当たり、初年度7万円、翌年度3万円を助成します。
 活動集団の指定：申込みに対してその内容を審査し、指定します。
 募 集 開 始：4月中旬～6月末

コミカレ修了今後の活躍を期待します

通算41回目となるコミュニティカレッジが2月6日に終了しました。コロナ禍でありながら参加した受講生の方、ご協力してくださった関係者の皆様ありがとうございました。計13人が終了し昭和55年からの修了者が2,330人となりました。

コミュニティ・フォーラム2021を開催しました

変わり始めたコミュニティの役割

2021年2月20日(土) 10時～15時 沼津市 プラサヴェルデ
 コロナ禍に開催されたフォーラム。112人の関係者が参加し、「変わり始めたコミュニティ」について豊富な事例を聞きながら、今私たちに何が出来るのか考えてみました。今回YouTubeLive配信を試みました。こちらは現在も見ることが出来ます。

基調講演:谷本道哉氏
 軽快なお話で会場からは笑い声が。正しい体の動かし方を実践しました。「浅いスクワットは浅はかなスクワット!」



パネルディスカッション
 「変わり始めたコミュニティの役割」をテーマに大いに盛り上がりました。YouTubeをご覧ください。

コミ一家

のりづき・りえ



シトラスリボンプロジェクト



柑橘が特産の愛媛県から始まった取り組み。3つの輪をかたどったシトラス(柑橘類)カラーのリボンをつけ、思いやりの輪を広げて、新型コロナウイルス感染症や医療従事者への差別をなくすための思いを広めています。

令和3年度 コミ推協事業予定

- ・ **コミねっと総会**
6月中西 分散開催
- ・ **出張コミカレ in 下田**
7月10、11日
- ・ **コミュニティカレッジ**
10月～12月(全3回)
- ・ **出張コミカレ in 掛川**
11月上旬開催
- ・ **アフター研修会**
10月中部支部研修会と合同
- ・ **フォーラム 2022**
2月19日開催